

渋沢栄一 その光と影

埼玉での活躍と負の側面

編集委員 山口 勇

今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」は、深谷市出身の渋沢栄一がモデルです。新型コロナウイルスの影響で、2月14日からの放映になりましたが、すでに次の紙幣の肖像も決まっております、地元深谷は盛り上がりつつあります。

2005年、県が指定した埼玉の三偉人（渋沢栄一、荻野吟子、塙保己一）の一人として県の道徳の教科書にも度々登場する人物でもあり、地元深谷をはじめ県北地域では授業化の強制も行われてきていると聞きます。

渋沢栄一は、1840（天保11）年2月13日に、武蔵国榛沢郡血洗島（現深谷市）の農家に、父、市郎右衛門、母、ゑいの長男として生まれました。栄一の家は麦作の他に養蚕、そして藍玉の栽培と売買を営む富農の家でした。その後の歩みは、大河下

ラマで描かれますし、本屋に並んだ様々な栄一に関する本に詳しく書かれています。ここでは栄一と埼玉県に関することと、ドラマでは描かれない負の側面を書いてみます。

会社の設立と福祉活動

渋沢は明治期、第一国立銀行の創立の他、海運、製紙、紡績、建設、ガス、電力、ホテル、ビールなど幅広い分野の企業の設立にかかわります。その数は500社にも及び、現在でも有力企業に名を連ねている会社も多いです。また、多くの会社を設立する一方、福祉活動にも力を注ぎました。欧州で慈善事業や福祉活動の運営方法や協力のしかたについて学んだこともあり、東京養育院の設置、日本結核予防会の設立など

をすすめ、国際交流にも力を尽くしました。栄一は地元埼玉県でも多くの事業や福祉活動を手がけました。それらは地域振興や地域福祉に大いに貢献しました。そのいくつかを紹介します。

富岡製糸場の建設

世界遺産に登録された富岡製糸場の計画、建設、運営には深谷市出身者が深くかわっています。渋沢栄一は明治政府の大蔵省官僚時代に、製糸を日本の輸出品に育成するために模範的な官営製糸工場の建設を計画しました。

これを具体的な形にしたのが尾高惇忠です。惇忠は栄一の従兄弟であり学問の師でもあります。栄一からの依頼もあり、工場の選定、建設にかかわりました。富岡製

糸場は日本最初の本格的な近代工場でしたが、惇忠の働きで1871（明治4）年3月に工事を着工し、わずか1年あまりで完成させたのです。1872（明治5）年10月から操業を開始し、惇忠は工場長として1876（明治9）年まで勤めていました。富岡製糸場の特徴は赤い煉瓦の工場ですが、この赤煉瓦の製造を請け負ったが、明戸村（現深谷市）の瓦職人、葦塚直次郎です。葦塚は瓦職人を引き連れ、群馬県甘楽町で良質の粘土の採れることを知り、苦心



渋沢栄一の生家

の末に成功したといわれています。

工場で働く工女を監督する工女取締役をつとめたのが下手計村（現深谷市）出身の松村和志（わし）でした。惇忠の働きかけでこの仕事にかかりましたが、和志はこの時62歳でした。また惇忠の娘、勇（ゆう）は工女1号であり、その他深谷から20人ほどの工女が富岡製糸場で働いていました。

このように富岡製糸場がつくられる過程で、深谷の人たちが深くかかわっていたことがわかります。この時期、現埼玉県の西部と群馬県は「熊谷県」であり、栄一は熊谷県を一大生糸の産地にしたいと考えたと思われます。

日本煉瓦製造

栄一は1887（明治20）年、深谷に日本煉瓦製造株式会社を設立します。本社は日本橋にありましたが、工場は深谷市上敷免にありました。原土が得られ、利根川の水運が利用できるからです。翌年操業が開始され、2006（平成18）年まで存続しました。ここで製造された良質な煉瓦は、東京駅など明治の代表的な建築物に多く利用され、明治の近代化に大きく貢献しました。現在この敷地周辺にはホフマン輪窯を

含め、4つの国指定重要文化財があります。特にホフマン輪窯六号窯は、1907（明治40）年6月の完成で、ドイツ人フリードリヒ・ホフマンが1858（安政5）年に特許を得た連続焼成が可能な構造の窯です。

埼玉育児院への協力と 青い目の人形

嵐山町にある安養寺という寺の当時の住職である小島乗真は、1908（明治41）年より、当時多く見られた孤児を寺に集め養育しました。そして1911（大正元）年に「積徳育児院」という名の埼玉県最初の孤児院を設立したのです。しかし小さい寺のためその運営は困難をきわめました。それを知った渋沢栄一は感激し、援助を申し出たのです。そのため運営も軌道にのり、社会福祉施設「埼玉育児院」として現在も川越の地で活動を続けています。

大正から昭和初期にかけて、アメリカの移民法成立により、日米関係がギクシャクした時、宣教師ギュエーリックと協力して「青い目の人形交流事業」も成し遂げました。1927（昭和2）年にアメリカから1万2739体の人形が海を渡り、日本各地の学校や幼稚園に贈られました。埼玉県

には178体が届き、各地で熱烈な歓迎会が開かれました。しかし戦争中は敵の人形ということで多くが処分されました。現存する県内の人形はわずか12体です。

韓国から見た洪沢栄一

洪沢栄一の生い立ちや功績を検証すると、どうしても偉人伝になってしまいがちです。しかし本当に良い面ばかりなのでしょうか。洪沢はハンセン病が広がりを見せた時、いち早く政府に隔離政策をするよう進言した人でした。

栄一が唱えた「論語と算盤」は道徳と経済の一致を説くものです。その中で「しかし戦争を喜ぶということは、人類の最も恥ずべきことである」、「武装平和というのは真の平和ではない、武装即戦である」、「軍艦をつくるより、台場を築くより、飛行機よりも、潜水艦よりも国際連盟が必要である」など、平和主義者としての発言もしています。しかし、日清・日露戦争時、洪沢は清国からの賠償金の使い方や、金本位制度導入などで政府に要望書を出しているものの、戦争そのものに反対したわけではなく、戦争により大儲けした実業人の一人でした。洪沢が一万円札の肖像になると決

まった時、韓国から強い批判が出ました。

1875(明治8)年の江華島事件をきっかけに、翌年日朝修好条約が締結されましたが、当時の朝鮮には金融機関はなく、商取引が不便でした。そこで洪沢は1878(明治11)年第一国立銀行釜山支店を開業、自らの肖像の入った銀行券(紙幣)を発行したのです。それも1ウオン、5ウオン、10ウオンの3種類すべてであり、このことは朝鮮人のプライドをひどく傷つけました。「初の肖像画は日本人」という屈辱的な歴史といえるわけで、「不法と強権と武力により、民間銀行が国の通貨を発行した」とし、利権収奪のため朝鮮半島で紙幣を発行したと理解されています。

また洪沢は、経済発展には鉄道が欠かせないとして、京仁鉄道をはじめ、朝鮮半島の鉄道網を整備していきました。これらのことは、日本から見れば朝鮮半島のインフラを整備し、朝鮮の近代化に貢献したと考えますが、韓国から見たら「朝鮮半島内の資源や物資を日本に送るためにつくられた」と理解され、洪沢は「朝鮮半島に対する経済収奪を象徴する人物」ととらえられているのです。また初代韓国統監だった伊藤博文と親しかったことも批判される一因になっています。京都大学の橋木俊詔氏は

洪沢栄一の肖像画が入った紙幣



「洪沢は朝鮮半島での事業を通して、結果的に軍部と政治家が推し進める帝国主義、植民地主義に与し、抵抗することもなかった。富国強

兵を達成してアジアを侵攻する以外、日本が列強の植民地となるのを避ける道はない。洪沢を含む政財界の大半がそんな考えにとらわれていた時代だった。」と語っています。(朝日新聞2021年4月22日)

ソウルの観光地明洞に、石造りの重厚な建物があります。かつての朝鮮銀行本店だったところですが、現在は貨幣博物館になっています。ここで洪沢の肖像画の入った紙幣を見ることが出来ます。

参考文献

- ・洪沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり(深谷市)
- ・日本の資本主義を作った男、洪沢栄一(宝島社)